

## 精神保健サービスの実践に携わるすべての人に求められる10の基本

### (1) 関係を築き協働できる

サービス利用者、ケアラー（利用者を無償で支える人たち）、家族、同僚、一般の人々、さらにはコミュニティと、建設的な協力関係を築きそれを持続できる。利害や目標の違いから関係者の間に緊張が生じた時に、その緊張を生かす前向きな取り組みができる。

### (2) 多様性を尊重できる

年齢、人種、文化、障害、ジェンダー、信仰や信念、セクシャリティについての多様性について、その価値を認め、尊重し、多様性が生きるケアや治療を提供できるよう、利用者、ケアラー、家族、同僚と協働できる。

### (3) 倫理を尊重した実践ができる

利用者や家族の権利と希望を常に忘れず、立場により強さに格差があることを認めて、その差をなくしていけるよう努める。提供する治療やケアが、ガイドライン、法律、自治体などが定める倫理規定に沿っていることを、利用者やケアラーに責任を持って説明できる。

### (4) 不平等に挑んでゆける

利用者・ケアラーや精神保健サービスについての偏見や差別、社会的な不平等や排除について、その原因とそれがもたらす影響をなくす取り組みができる。利用者が暮らすコミュニティで、その一員としての役割を見出し、発展させ、持続でき、それにより尊重されるよう、支援する。

### (5) リカバリーを促進できる

利用者やケアラーが、精神保健の問題に対して希望を持って前向きに取り組むことができるよう、また精神保健の問題による困難があってもそれを乗り越えて価値ある人生が送れるよう、協働してケアや治療を提供できる。

### (6) 利用者のニーズを明らかにし、ストレンクス（持っている力）を見出すことができる

利用者、家族、ケアラー、友人と協働して、健康と生活のケアについての情報を集め、希望する人生と夢を叶えるという視点から、そのニーズについて一致できる。

### (7) 利用者中心のケアを提供できる

利用者と家族の視点にもとづいて、達成が可能で意義のある目標を話し合い、合意できた目標については、それを可能にして実現する方法、そのためのそれぞれの支援者の責任、支援の成果や達成できたことの意義を幅広く評価する方法を明確にできる。

### (8) 本当に役立つサービスを提供できる

利用者、家族、ケアラーのニーズを満たし希望を実現するために、健康と生活について科学的根拠にもとづきしかも価値観を尊重した最良のケアへのアクセスを容易にし、実際のサービスとして提供する。

### (9) 安全の確保とリスクへのチャレンジを両立して促進できる

健康や安全についてのリスクにどこまでチャレンジするかを、利用者自身で決められるよう支援する。利用者、家族、ケアラー、コミュニティが負うことになるかもしれないリスクの可能性とそれに備えた対応を十分吟味したうえで、安全を図ることとチャレンジを尊重することの間の緊張に取り組める。

### (10) 自己啓発と学習を進める

精神保健・医療の最新の進歩を積極的に取り入れる。自分の実践について、指導を受け、互いに評価し、自ら振り返ることを通じて、自分自身や仲間が人間としても専門家としても成長するよう努め、生涯学習を進める。